

平成27年9月15日

開 議

第10回

酒田市教育委員会会議録

第10回 酒田市教育委員会 会議録

1 日 時 平成27年9月15日(火) 午後1時30分 開会
午後3時05分 閉会

2 場 所 酒田市役所中町庁舎6階 61号会議室

3 出席者

出席	欠席	教 育 長	村 上 幸 太 郎
出席	欠席	委 員	浅 井 良
出席	欠席	委 員	齋 藤 義 明
出席	欠席	委 員	西 村 薫
出席	欠席	委 員	國 眼 眞 理 子

4 説明者

出席	欠席	教 育 部 長	大 石 薫
出席	欠席	管 理 課 長	桐 澤 聡
出席	欠席	学区改編推進主幹	大 沼 康 浩
出席	欠席	学 校 教 育 課 長	今 野 誠
出席	欠席	学 校 教 育 課 指 導 主 幹	齋 藤 司
出席	欠席	社 会 教 育 課 長	清 野 誠
出席	欠席	図 書 館 長	阿 部 博

5 議事日程

- 日程第1 会期決定
- 日程第2 会議録署名委員の指名
- 日程第3 前回会議録の報告
- 日程第4 議事
- 日程第5 教育長の報告
- 日程第6 その他

◎ 開議

(村上教育長) ただいまより、平成27年第10回酒田市教育委員会を開会いたします。
本日は、國眼委員が欠席であります但定足数に達しておりますので直ちに会議を開きます。

◎ 会期決定

(村上教育長) 日程第1 会期の決定 を議題といたします。
会期は、本日1日限りとしたいと思ひますが、ご異議ございませんでしょうか。

(各委員「異議なし」)

(村上教育長) ご異議なしと認めます。よって、会期は本日1日限りと決定いたしました。

◎ 会議録署名委員の指名

(村上教育長) 次に日程第2 会議録署名委員の指名 を議題といたします。本日の署名委員に浅井委員と西村委員を指名したいと思ひますが、ご異議ございませんか。

(各委員「異議なし」)

(村上教育長) ご異議なしと認めます。よって、会議録署名委員は浅井委員と西村委員に決定いたしました。

◎ 前回会議録の報告

(村上教育長) 次に日程第3 前回会議録の報告 を議題といたします。前回会議録の報告は、お手元の会議録の写しで報告に代えさせていただきます。この会議録についてご質問はございませんでしょうか。ないようでしたら、承認とさせていただきます。

◎ 議事 議第29号 平成26年度酒田市一般会計歳入歳出決算の認定について

(村上教育長) 次に日程第4 議事 に入ります。議第29号 平成26年度酒田市一般会計歳入歳出決算の認定について を議題といたします。これについてご提案願ひます。

(教育部長) 議第29号 平成26年度酒田市一般会計歳入歳出決算の認定について、酒

田市長より意見を求められているので、同意するものとするものです。

資料が2つあります。最初に、平成26年度酒田市一般会計歳出決算事項別明細書になります。事項別明細を開いていただきますと、ページで270、271となっているところですが、ここが10款教育費になります。

平成26年度の当初予算は、3,985,984千円でした。年度途中の補正で58,123千円を減額しております。また、前年度平成25年度からの繰越の予算が542,940,500円あり、最終的な予算の現計としては、4,470,801,500円でした。実際の決算額としては、4,287,809,811円で、繰越明許をした分、亀ヶ崎小学校のグラウンド改修部分を次年度に送った関係で、その財源、35,391,720円を差し引きまして、不用額としては、147,599,969円となっております。

下に教育総務費がありますが、教育総務費としましては、928,855千円の予算に対して、支出済額は、894,192,054円で、34,662,946円不用額となったところです。主な不用額につきましては、次のページをご覧くださいと、2目の事務局費の中で、共済費の部分と賃金の部分に400万、700万ということで、日々雇用の部分について大きく不用額が発生しているという状況です。その下の最後の行に指導費とありますが、学校教育課の所管になりますが、こちらでも、報酬、あとは負担金・補助金といったところが、実績に応じて不用額が生じているところです。なお、事業については、後で別添の資料があります。少し大きなところでは、282、283ページのところに6目学事費があります。ここでも700万ほどの不用額が出ているのですが、一番大きなものは委託料で、スクールバスあるいは遠距離通学対策ということで、冬期間のバス委託といったものが、実績に応じて不用額が出ているという状況です。その次のページの284、285ページが小学校費になります。小学校費では、全体としては最終的な予算現計が、1,801,299,100円でしたが、支出済額としては、1,689,140,429円ということで、繰越明許費を引いて76,766,951円の不用額ということです。どうしても施設の維持管理費については、光熱水費といった需用費について、不足ができないということで、そういった各学校分を重ねてしまうと少し大きくなり、1目の学校管理費の中で、例えば需用費が1,200万円の不用額というように不用額が大きくなっているところがあります。ページをめくっていただいて、288、289ページのところの学校建設費については不用額が47,969,160円と少し大きく出ていますが、これは繰越明許費で実施をしました富士見小学校、あるいは泉小学校の改修事業で、前年度からの予算を繰り越している関係で、補正ができないということで、そのまま不用額となっていることが主な原因です。次の中学校費につきましては、中学校費全体では、854,744千円の予算に対して、決算額は832,098,221円で、22,645,779円が不用額となっています。これも需用費で、480万程度不用額が出ていますが、それぞれの施設の管理運営費の各学校分がままとすると、最後には少し大きく不用額が発生するという状況です。次のページの292、293ページのところに中学校の学校建設費がありますが、ここでも600万ほどの不用額が出ておりますが、大きなところは工事請負費で、これも繰越明許費になっている東部中学校、事業としては当時の飛鳥中学

校の改修の繰越し分がありまして、繰越した事業については補正で減額できないということで、不用額が少し出ている状況であります。4項の生涯学習振興費につきましては、885,903,400円で、決算額は、872,379,107円ということで13,524,293円の不用額が出ているところです。こちらでも工事請負費の部分について、最終的に額が確定した関係で、不用額が出ているという状況です。決算の状況については不用額を中心にして説明しました。

もう一つの一般会計の主要な施策の成果報告書ですが、こちらは、210ページになりますが、右側の学区改編推進事業から始まりまして、かなり詳細にそれぞれの事業の予算現額、支出済額、不用額、執行率、議会で執行率が問題になった関係で、執行率も含めて支出状況を明示しております。また、目的、趣旨、あるいはその事業の概要等についても詳細に記載をしておりますので、後でご覧いただければと思います。これについては説明を省略しますが、かなり詳細なものです。例えば222ページのところをご覧いただきたいのですが、日々雇用職員の賃金として一つの予算区分になりますが、そのうち教育支援員分、あるいは図書専門員分については別途内訳を示して、わかりやすいように表示をしているところです。後で時間等ありましたら少し目を通していただければと思います。

次に全体の酒田市の状況ですが、257ページをご覧いただきたいのですが、平成26年度会計別決算の状況ということで、一般会計といたしましては歳入決算額が51,423,265,556円、歳出決算額が、49,550,921,365円、差し引きの収支としては1,872,344,191円、これに27年度に繰り越しをしている事業がありますので、その財源205,139,687円を差し引いて、実質的な収支としては1,667,204,504円、これが黒字として翌年度に繰り越しとなるものでございます。参考までに261ページのところは、歳入を区分けしておりますが、市の根幹をなすものは市税になるのですが、市税については決算額が13,008,254千円で、全体の構成費の割合でもそう大きくはないです。10番目にある地方交付税が、16,046,209千円で、地方交付税にかなり依存した構図になっている関係で、合併してから10年間特例措置があり、地方交付税が増額になっているのですが、これが来年度以降少しずつ減っていき、財政的には厳しい予算になるということで、十分調整した上での予算要求が求められているということになります。参考までに264、265ページのところで、目的別の決算を出していますが、下から5行目のところに教育費とありますが、この教育費は文化スポーツも入っています。本来の目的別なので文化スポーツも含めていますが、平成22年度は70億程度あったものが、23年度80億とか、平成26年度は5,234,806千円ということでかなり動きが激しくなっています。これについては、学校改築等が多く入るかどうかがかなり大きく変わってきます。学校統合で学校改修、耐震改修が落ち着いてくるところで、教育費全体としては、26年度決算は構成費としても下がってきておりますが、それぞれ個々の教育委員会の事業については変わらない、もしくは新規事業なども増えている関係で少し増えている、こういった状況であります。

私からは以上です。

(村上教育長) ただ今の提案に対しましてご質問やご意見ございませんでしょうか。

(齋藤委員) 用語の使い方で教えていただきたいのですが、例えば272、273ページのところの管理課の項目の中で、3教育委員会事務局管理事業の中の報償金と賞賜金、これは、行政の会計での使い方はどういうふうになっているのか教えていただきたいのです。私が調べた中で、報償金の中に賞賜金も入るようなものもあるようですので、本市の場合どのような使い方されているのか教えていただければと思います。

(管理課長) 自治体によって使い方は様々かと思いますが、酒田市での捉え方としては、報償金については謝礼的な意味をもつようなものについては、報償金ということで支払いをしております。これに対しまして賞賜金というのは、例えば、何か賞をとった方に対しての図書券であるとか、あるいはトロフィーであるとか、表彰するような内容につきましては、賞賜金というような形で分けて考えているところでございます。

(齋藤委員) ありがとうございます。この報償金と賞賜金という項目は各項目いろいろなところにあるわけですが、一つ確認したいのが、例えば279ページの12スクールカウンセラー等活用事業に、報償金となっている項目があります。これは職員の方々の手当も含まれるという考え方なのかなと思うのですが、報償金の使い方と報酬の使い方が分けられている部分があるのですが、それは、例えば補助事業の関係があるとか、本市での事業への取り組み方もあると思いますが、その辺を説明していただきたいと思います。

(管理課長) 報償金につきましては、先ほども申し上げましたとおり、謝礼的な意味のものというようなこととなります。スクールカウンセラーにつきましては、市の職員ではなくて、外部の方を委嘱してご協力をいただいているということで支払いをしている謝金というような取り扱いとなります。それから報酬については、これは極めて限定的な場合で使っております。条例の中に規定をされている方の職員以外の人件費などについては、報酬から支払いとなります。例えば、教育委員の皆さまに毎月お支払いするものにつきましては、報酬という費目から支出をしております。こちらは、条例規定にある方という限定的な方について報酬支払いをしているというような状況です。

(齋藤委員) ありがとうございます。

(村上教育長) 他にございませんでしょうか。

ないようですので、それではお諮りをしたいと思います。議第29号 平成26年度酒田市一般会計歳入歳出決算の認定について を提案のとおり決するにご異議ございませんか。

(各委員「異議なし」)

(村上教育長) ご異議なしと認めます。よって議第29号は提案のとおり決しました。

◎ 議事 議第30号 平成27年度酒田市一般会計補正予算(第5号)について

(村上教育長) 次に議第30号 平成27年度酒田市一般会計補正予算(第5号)についてを議題といたします。これについてご提案願います。

(教育部長) 議第30号 平成27年度酒田市一般会計補正予算(第5号)について酒田市長より意見を求められているので同意するものとするものです。

次のページに資料がありますが、平成27年度酒田市一般会計補正予算(第5号)に教育委員会の関連といたしまして、繰越明許費の設定をするものです。松山小学校改修事業、80,108千円を、全額繰越明許するというので、具体的には、松山小学校の統合小学校の設計予算になります。工期的に年度内に完成が見込めないということで、今年度と来年度2カ年にわたって予算が繰り越して使えるように補正予算措置をしまして、その後に発注作業を進めていくということで、今回繰越明許するものでございます。以上でございます。

(村上教育長) ただ今の提案に対しましてご質問やご意見はございませんでしょうか。よろしいでしょうか。ないようですので、お諮りします。議題30号 平成27年度酒田市一般会計補正予算(第5号)についてを提案のとおり決するにご異議ございませんか。

(各委員「意義なし」)

(村上教育長) ご異議なしと認めます。よって議第30号は提案のとおり決しました。

◎ 議事 議第31号 教育に関する事務の管理及び執行状況の点検及び評価について

(村上教育長) 次に議第31号 教育に関する事務の管理及び執行状況の点検及び評価についてを議題といたします。これについてご提案願います。

(管理課長) 議第31号 教育に関する事務の管理及び執行状況の点検及び評価についてご説明をさせていただきます。提案理由につきましては、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条第1項の規定によりまして、平成26年度の教育施策について教育委員会として、報告書を作成し、これを議会に提出するとともに公表するためのものです。

今回の点検評価は、平成26年度事業の点検評価となりますので、教育振興基本計画の前期計画に沿った内容としておりますが、今年度策定をしました後期計画の内容についても、一部踏まえたものとさせていただいております。また今回の点検評価の改正点といた

しまして、施策事業の中には、私立高等学校の運営費補助金などランクによる評価になじまないようなものにつきましては、評価基準によるランク付けは行わないで、今後の方向性を示すような記述とさせていただいております。3ページ目をご覧くださいと思います。3ページ目以降につきましては、外部評価者の全体的な意見をまとめたものになっております。この中から、概要についてご説明をいたしますと、外部委員の方から評価された点としては、C評価が解消されたという点、昨年度の意見を踏まえて指標の見直しが図られ、より現実的な数値設定、達成度を見る上でふさわしい指標設定とした点、それから、資料が原則として1ページにまとめて、見やすいというところが評価されたところです。また、改善注意すべき点としましては、この点検評価がマンネリ化しないようにということ、事業規模の大きいものについては、予算額を明示すること、特に、新規の大きな施策事業については予算額のほか、説明のための参考資料なども添付するなど、わかりやすくしてほしいといったところ、指標の実績については、可能な限り経年で示してほしい、事業効果を説明する際には、根拠となるデータを示すようにしてほしい、それから、松山小学校の統合につきましては、地域住民と市教委の意思疎通が十分ではなかったのではないだろうかなどのご指摘をいただいたところです。続きまして4ページ目以降につきましては、今度は外部評価者による事業ごとの意見をいただいております。こちらについては、ご覧いただきたいと思います。それから10ページについては、酒田市教育振興基本計画の前期計画の体系図を付けております。11ページ以降については、この体系図に沿ったそれぞれの施策ごとの目的、目標、それから各課の取り組み状況、自己評価の記載したシートを付けております。なお、8月の協議会で、皆様から、点検評価報告を踏まえて、教育施策について様々なご意見をいただいたところですが、いただいた意見を各課で再度検討をいたしまして、その検討内容をまとめた資料、A3判の資料ですが、お配りをさせていただいております。今後の事業執行や、新年度予算の方に、このご意見について活かしていきたいと考えているところです。なお、この点検評価報告書については、本日議案として上程をし、議決をいただいた後に、9月議会で議員の皆様へ報告し、その後ホームページで市民の方への公表を行う予定でおります。

以上よろしくご審査くださいますようお願いいたします。

(村上教育長) ただ今提案がございました説明の中で、特に点検評価活動がマンネリ化しない、点検評価活動によって、事業がより質の良いものになっていく、そのための意見交換をしているので、委員の皆様から出た意見などを十分認識をして、今後の施策にどのように活かそうとしているかといったようなことを、もう一度委員の皆様の方にお返しをして、両側からのキャッチボールをしながら、意見をもらうことの良さを活かしていきたいと考えたところです。今後の意見も含めてですが、ご質問やご意見ないでしょうか。お願いいたします。

(浅井委員) 前回の協議会で、意見については述べさせていただいたのですが、今回まとめてもらった担当課としての今後の対応、検討状況等の中で、ひとつ質問させていただき

たいのですが、学力向上対策の充実のところ、担当課としての今後の対応、検討状況等の一番下のところの酒田の子どもの学力向上推進委員会について、学識経験者も入ったの委員会ですが、外部の学識経験者等が入ると、かなりシビアな意見がおそらく出たと思うのです。外部の学識経験者の方々から、酒田市の学力向上のためには、こんなことを重点的にやったらいいのではないかとといったようなご意見がもしあったのであれば、お聞かせ願いたいと思います。

(学校教育課長) 7月に酒田の子どもの学力向上推進会議を行いまして、その席上では、外部の学識経験者含めて、中学校校長会代表者など、いろいろな方から会議に入ってもらったのですが、その中で、読書についての学力向上との関係、日々の授業の実践を大事にしていく取り組み、そういう意味では校内の授業研究会を充実させていくということ、それから、情報として小中連携の在り方についての事例について、それから県の施策の探究型の学習の推進のために県の方で今考えているということで、自ら課題を見つけ追求していく、そういう授業の研究をお願いしているところで、そこを広げていきたいということ、それから、学力をとらえる中でも点数に結び付けるようなことも大事にしていかなければならないのではないかと、そういう意見も頂いたところですので、今後施策に反映させていければと思っているところです。

(浅井委員) そうすると、学校教育課で考えているような学力向上対策と、大きくかけ離れているような提案はなかったということですね。

(学校教育課長) 今後、また学校教育課でも案を考えながら、そして、学力向上の推進会議にそういう案を提案しながらご意見をいただきたいと思っているのですが、小中連携の在り方、校内の研究推進のあり方、それから課題として、弱点教科の対応のあり方、そういうことについて、また検討していかなければならないと思っております。

(浅井委員) わかりました。

(村上教育長) なお、第1回目の会議のそれぞれの委員からいただいた意見のあり方というのは、関係する立場、例えば大学教授なら大学教授が、この酒田市の実態を見た時に、どう自分たちとしては進めることができるか、例えば大学の立場からであるとか、あるいは今後の学力向上全体に対する考え方であるとか、それから県教委は県教委なりに、これから学力対策をどういうふうにしようとしているかとか、あるいは読書を考える委員の方からは、一般論としてこれからどう読書を充実させるかといったように、所属する関係が基本的に持っているスタンスとして、こういうふうな進め方が大事だというふうなことは概して述べられたけれども、酒田市独特の実態に迫って、こういう施策を打つべきではないかとか、そこまでは第1回目としては掘り下げて議論はなかったと思います。一般論としての学力向上対策の意見がほとんどでした。次回期待したいことは、一般論でなく、酒

田の現状を踏まえてどんな対策が考えられるのかという、実態に対する対応を中心に意見が作り出せればいいのかなど思っているところです。そういう面では、現在やっているQ-UにつきましてQ-Uの意義というのを会議として全体に共有するために、Q-Uが持っている有効性について半分講義形式で委員の人も共有したといったような対応も含めていました。ですからこの厳しい現状に対する施策については、次回以降十分話し合いができるようにしたいというふうには事務局の方で考えている状況でございます。

(浅井委員) 県の方でも今回の学テの結果が出て、一つの大きな施策の1つとして、10月には、学部有識者を加えた会議を開くということで、これにすごく期待をかけているような報道があったので、今回お聞きしてみたところでした。次回以降ということで期待していきたいと思います。

(村上教育長) 他にご質問やご意見ございませんか。

それではないようですので、お諮りをしたいと思います。議第31号 教育に関する事務の管理及び執行状況の点検及び評価について を提案のとおり決するにご異議ございませんか。

(各委員「異議なし」)

(村上教育長) ご異議なしと認めます。よって議第31号は提案のとおり決しました。

◎ 教育長報告

(村上教育長) 次に日程第5 教育長の報告を行います。今回私からの報告は、平成27年度全国学力学習状況調査の結果による酒田市の現状と課題についてです。それではお手元に教育長報告の資料を配布しておりますので、ご覧いただきたいと思います。まずは私から全体的な見方の話について報告をしまして、もう少し詳しい分析につきましては学校教育課長から付け足してもらおうと思っているところです。各委員の皆様、全国学テ平均正答率経年比較という折れ線グラフがあるものを配付させていただきました。こういった経年の傾向を見る資料としましては、今までも表ではあったのですが、このようにこのレベルで折れ線グラフにして、全国、山形県、酒田市を比較した表というのは提示してまいりませんでしたので、今回は、まず経年の動きというのは非常に重要であろうということで配付したものです。1枚目と2枚目になっておりますが、1枚目が小学校、2枚目が中学校です。表の見方ですが、まず右側のグラフですが、全国の平均値を緑色で横のバーにしております。ここが全国平均のラインです。これに対しまして、山形県の平均を赤で、そして酒田市の平均を青で示したものです。なお、左側の表は2010年、2012年が出出となっておりますが、この調査のやり方が、悉皆でなくて抽出項であった年度もありましたので、抽出となりますと、かなり変動する可能性がありますので、そこはそれを

加味して値を見ていただければと思っいるところす。それで、小学校の方を、このグラフの真ん中あたりに線1本引くとすると、成績の下降傾向に歯止めがかからないとすることができのではないかと思っいます。小学校国語は酒田市も全国平均に比べて良かったということもあるのですが、非常に厳しいというような状況です。A問題については全国平均より上に留まっておりますが、B問題になって、大きな落ち込みが見られます。これはあくまでも全国との比較です。なお全国自体のレベルが動きますし、また同じ子供たちを追っているのではなく、その時々々の学年の成績ということもあり、子供たちの学習歴やその時の担任の先生の指導だとか、非常に大きな変動の原因がいろいろあるのですが、このような実態になっているということす。算数数学についても、算数数学が弱いという傾向がなかなか回復できないのですが、非常に難しい状況になってきているということす。なお、これは少し私の私見も入るのですが、全国平均と比べてどの程度の差をどういうふうに感じるかということす、プラス1ポイント、マイナス1ポイントとか、1.数ポイントくらいならば、その時その時ということもあるのかもしれませんが、2ポイントあるいは2ポイント以上差があるということは、これは学力としては、単に1点差とかそういうことではなくて、非常に大きな学力の有意差として捉えるべきではないのかなと思っいるところす。中学校を見ていただきたいと思っいます。これまでは、小学校に比べて中学校は一層厳しいのではないかというような認識でいたのですが、それは変わりありませんが、全国平均と比べて低いレベルを推移し、県とも比べて全て低い推移ではありますが、見方によっては、差を縮めようとしている動き、なかなか縮まらない状況ではありますが、中学校なりにしっかり頑張ろうとしている動きも感じられるのではないのかなという部分もあります。しかし依然として、厳しい状況にあるのかなと思っいます。特に算数数学については、小学校時代から、なかなか学力が高まらない状態で中学校に入学し、その子供たちが中学校の中では伸びているかと言われると、全国と比べてみても、県と比べてみても伸びているとは言い難い状況にあるのかなという現状です。次に、資料にないところで、私の言葉だけでも一つ別の観点で実態について申し上げたいのは、非常に頑張っていて力があって全問解くような子供たちから、ほとんど正解のないような子供達までどのように分布しているかという分布の曲線があるのです。そこで、山形県と酒田市の特徴を大雑把に申し上げますと、トップレベルの子どもたち、全問正解であるとか、あるいは1問しか間違わないとか、そういった子供たちが占める割合というのが全国平均よりもかなり低い。山形県よりも低い。全部ではありませんが、そういう傾向を示しがちだということと言えます。一方、その中で、中くらいの子供たちは、全国や県よりも酒田市が上になるのです。つまり大雑把な言い方をしますと、トップレベルの割合が非常に少ない傾向にあるのに対して、中か中よりも少し低い辺りのところが盛り上がる傾向があります。今見ていただいた折れ線グラフや表は、平均点です。平均点というのは、すべての子どもたちの点数を合算して割っていくということになるのですが、なぜ酒田が平均点としての伸びが、なかなか高まっていかないかということ分布から少し考察すると、トップレベルの子どもたちが獲得しているはずの点数が真ん中に寄ってきているために、平均値としてはちょっと後ろに下がるような構造を示していないだろうかと。これは専門的に分

析したのではなく、ここに資料提示もしておりませんが、これは県の分析で言われていたことの一つではあるのですが、その傾向が酒田市の方が一層顕著な可能性がございます。様々な施策で頑張っている部分があって、私としましては、全体が頑張っていて決して何か手を抜いているとか、言葉が適切ではありませんが、学校も先生も子供たちも一生懸命なので、全体としては、エスカレーターとしては確かに上がっているのですが、エスカレーター上でいろんな動きがありますから、それが全国平均と比べるとこの数値になってしまいます。全体は上がっていたとしても、その全国の平均自体が動きます。他県の動きも含めて非常に力が入るものですから、かなり上がってくると思います。そういったような傾向を、二重の構造ですが、全体は上がるけども上がるエスカレーターの中で上下関係が出てくるというようなこういう構造になっているのですが、そういったようなことを踏まえながら、今後、先ほどの対策会議では検討が必要かと思います。私からの概略的な説明は以上でございます。学校教育課長から、全部でなくて結構ですが、ポイントとして注目してほしいところをかいつまんで説明してください。

(学校教育課長) それでは、小学校と中学校の分3枚ずつ綴じられた資料ですが、1枚目をご覧ください。小学校は、国語については先ほどの経年比較のところにもありますが、全体として、A問題の酒田市の平均正答率は、全国平均正答率よりやや上回っている、昨年度は約2ポイント上回っている状況でした。B問題は全国平均正答率より約1ポイント下回っている、昨年度はやや上回っている状態でした。算数は、A問題が約2ポイント下回っている、昨年はやや下回っている状態でした。B問題は約3ポイント下回っている、昨年はやや上回っている状況でした。続いて2枚目をご覧ください。今年度は理科のテストも実施されております。理科の主として知識に関する問題は、全国平均正答率より約2ポイント上回っています。主として活用に関する問題については全国平均正答率より、やや下回っています。この全国平均正答率の比較からは、今年度は昨年度より課題がある状況と捉えられます。特に算数に課題がある状況と言えます。続いて中学校をご覧ください。中学校の国語A問題は全国平均正答率よりやや上回っています。昨年度はやや下回っている状況でした。B問題は全国平均正答率よりやや下回っている、昨年度は約1ポイント下回っている状況でした。続いて右側の数学についてですが、A問題は全国平均正答率より約3ポイント下回っている、昨年度は約1ポイント下回っている状況でした。B問題は全国平均正答率より約4ポイント下回っている、昨年度は約1ポイント下回っている状況でした。続いて2枚目、理科についてですが、主として知識に関する問題は、全国平均正答率より約2ポイント下回っている、主として活用に関する問題は、全国平均正答率よりやや下回っている、全国平均正答率との比較からは、今年度は、昨年度より国語の状況が上向いていると捉えられます。数学理科については課題がある状況といえます。続いて質問紙による状況についてです。先ほどの小学校の方の3枚目をお開きください。(1)の教科に関する質問では、国語、理科は好きと回答した児童の割合が全国県平均よりも高い状況ですが、算数については約2ポイント低い状況です。昨年度よりは約4ポイント高い数値となっております。約2ポイント低い状況で、先ほどの正答率の低い状況と重なります。

それから、国語、算数が役に立つと回答している児童の割合が約90%、昨年度より約4ポイント高い状況ですが、これに対して、好きと回答した児童が、60%から70%、昨年度よりは約4ポイント高い状況です。そういったことで、さらに意欲を高めること、魅力ある授業づくりを重視していかなければならないと感じています。(2) 児童生徒自身に関わる質問では、地域とのつながりについて、全国平均よりも約20ポイント高い状況で、学校と家庭が連携して取り組んでいること、それから地域の方々から子供たちへ多くの支援をいただいていることが伺われます。(3) の家庭生活に係る質問では、読書への興味が昨年以上に高い結果で、昨年度より約4ポイント高い状況です。今後は、国語の授業の中で多くの本に触れさせ、それから読書に興味を持たせたり、学校や家庭地域が朝読書や読み聞かせなどの取り組みを継続してきた成果が表れていると考えられます。一方、家庭学習時間の状況と、テレビ・DVD・ゲームに2時間以上向かう実態から、家庭での生活のあり方や、家庭学習の時間の増加への取り組みについて、PTAと共に再考していく必要があると受け止めています。中学校の方の3枚目の資料をご覧ください。同じく質問紙における状況です。(1) の教科に関する質問では、理科は好きと回答した生徒の割合が全国平均より高い状況ですが、国語、数学については低い状況です。また、授業内容はよく分かる、役に立つと回答している生徒の割合が、全国に比べて低い状況で、指導と評価が一体となった授業、それから上位を伸ばす、また、中位の方も下位の方も伸ばす意味で、個別指導の充実、学んだことを活用する、教科の良さを実感する授業づくりを重視していかなければいけないと感じています。それから(2) の児童生徒自身に係る質問では、小学校6年生と同様に、地域とのつながりについて、全国平均よりも18.5ポイント高い状況で、学校と家庭が連携して取り組んでいること、地域の方々から多くの支援をいただいていることが小学校同様伺えます。(3) の家庭生活に係る質問では、読書への興味や読書の時間は昨年以上に高い結果で、学校や家庭地域が、朝読者や読み聞かせなどの取り組みを継続した成果が、小学校からそのまま継続して成果として現れております。また小学校同様ですが、家庭学習の時間の状況と、テレビ・DVD・ゲームに2時間以上向かう実態から、家庭生活のあり方、家庭学習の時間の増加への取り組みについては、PTAと一緒に再度考えていくことが必要だと感じています。小学校の3枚目と中学校の3枚目の最後のところに、本市としての今後の対策をまとめさせていただいております。その中から1つ説明させていただきますと、今年度からQ-Uを導入していますが、生活と学習の向上を一体として捉える視点を大切にして、良好な人間関係を下に生き生きと学び合い、お互いに表現し合える学級づくりを推進するため、学級経営に関する講話や研修会を実施するとともに、各校への研修会の支援を行っていきたいと思います。それから標準学力検査、全国学力学習状況調査の結果の分析から、改善すべき課題について、指導主事の各校への訪問を通して校内授業研究会の充実と、授業改善に向けた取り組みへの支援を行う予定です。それから、現在、算数・数学に特化して小中授業力向上研修会を行っていますが、酒田市教育研究所と連携を図りながら思考力、知識・技能を活用する力の育成や、言語活動の充実を意図した授業づくりに取り組んで、研修に参画した先生方の指導技術の向上と、研修成果の拡充に努めていきたいと思います。それから、テレビ・DVD・ゲームに2時間以

上向かう実態については各校でも課題と捉えていて、それぞれの学校で、ノーメディアとか、アウトメディアとか、メディアダイエツトなど表現は違いますが、家庭での生活の在り方や、家庭学習の時間の増加への取り組みについて工夫を凝らした取り組みを進めている状況です。今後、学力向上に向けて、今回の結果から、校長会においてPTAともに再考していく必要があることを問題提起しながら、各校の取り組みがさらに充実していけるように働きかけたいと思います。以上です。

(村上教育長) 私からの報告、課長の説明、合わせて以上ですが、ただ今の報告にご質問ご意見などございませんでしょうか。

(齋藤委員) 質問というよりは意見に近くなると思いますが、本市でも子供たちを取り巻く環境がどのようなものなのかというところで、もう一回授業内容を再構築しようという考え方で、今動いておられる姿勢を聞かせていただきましたが、たまたま私が耳にした中には、教育長がおっしゃったように、学校現場では、学校の先生方は一生懸命頑張って取り組んでいる状況ですが、先ほどの上位にいる子供、下位にいる子供というような話にちょっと連動しますが、現場の先生方は、どうしても下位に位置する子供達に目が行ってしまう、その中で上位の子供達にも、もっと接する、目をかけたいというような気持ちがあっても、下位の子供達をいかにして底上げしていくかということにどうしても力点を置いていくという、どこの現場の先生方も同じだと思うのですが、それが顕著に酒田市の場合出ているのかなと思います。これから、授業の仕方、生活のリズム体系なども考えながら、もう一回整備しようということですので、その辺の考慮もしながら、授業中心というような考え方も重要ですが、それだけでは、こぼれおちる子供たちもいるわけですから、今一度その辺も本市全体として検討事項の中に入れながら、再構築すべき時期なのかなと思います。Q-Uなどを利用しながら、ある程度子供たちのプライベートの中にも入っていくと、それを成長期の中で活かしていくというような大変素晴らしい考え方であると思いますが、それとタイアップしながら、今言ったような学校現場の現状も踏まえながら、限られた人員の中でいかに子供たちをまとめ、限られた時間の中でやるためにはどうすべきなのか、それも本市の課題として一つ考察の観点に入れるべきだと思いますので、今後検討していただければ大変ありがたいと思います。

(村上教育長) ありがとうございます。ご意見としていただきましたが課長何かコメントありますか。

(学校教育課長) どの子も伸びるような取り組みということで、授業づくりもそうですが、今年度からQ-Uを行うことによって、今現在、Q-Uの結果で満足度に位置する子供が全国平均より高いのですが、それがもっともっと高い状況にあると、学級の質が変わっていったら、例えば資料によると、満足度が50%から60%の時は、子供の一つの考え方なのですが、いろんなことをしてもらって楽しいという考え方、それが、満足度が70%80%

になった時には、自分が学級に貢献できてうれしい、役に立てる自分であることがうれしいとか、そんなふうになっていくというようなデータもあります。そういう意味では、学力向上と、今取り組んでいるQ-Uによって、高め合う集団作りをしながら、そこにまた教師がどうかかわっていくか、一緒に検討していく必要があると思います。どうもありがとうございます。

(村上教育長) 他にご質問やご意見ございませんでしょうか。

(西村委員) 意見として申し上げさせていただきたいと思います。資料をいただいた時に、その年だけのデータでは、測れないなと思ひまして、先ほどから教育長さんからの経年比較ですとか、分布の状況をいただいて、少し認知したというところがありますが、それを受けて私が思ったのは、上位が少ないのであれば、上位を増やすやり方、中や中の上が多いのであれば、そこを上位にするやり方、下位を減らすやり方、個別対応とおっしゃっていましたが、今まさに、全部一緒にする方策ではやりきれなくて、個別対応というのがものすごく大事なのかなと思っています。上位にいる子が少ないとモチベーションが下がる傾向があるので、そこを上げるにも個別対応というのは本当にさせていただきたいと思ひました。教育全体を考えて、小学校は比較的良いので、その良さを中高に進められていないような気がしていました。そこを考えたときに高等教育自体のレベルも、ちょっと問題というか頑張っていたいただきたいところがあって、そこに目指すための中学校だということを確認していかないと、具体的になってこないし、それを見据えると、自分のキャリア、人生をどういうふうに捉えるかという教育を植え付けることが大事なのかなと思ひます。そういった時に、家庭生活の実態を見て、テレビやパソコン、アウトメディアということの時間が割かれている場合ではないのではないかとこのところに気付かないと、まだまだ教えなければいけないことが山ほどあるし、実態として、山形県はこうだけど、どの県も平均を目指しているのも必死にやっつと一緒だと思いますから、自分のところだけではなくて、周りも必死にやっつている中で、数値を上げていくというのは並大抵ではないと思ひました。

(村上教育長) ありがとうございます。他にございませんでしょうか。

(浅井委員) 8月26日でしたか、山形新聞だと思いますが、県の平均と全国の平均の経年経過の折れ線グラフが載っていました。あれを見て大変ショックを受けたのですが、県知事も本県の学力については低下傾向にあるということで、大変残念だというようなコメントを出されたようでした。それを見て、酒田市ではどうなっているのかなと思ひました。今日まさしく経年変化の折れ線グラフを示していただいて、大変良かったと思うのですが、山形県と同じようにして、低下傾向にあることを、今改めて分かりました。そこで一つお聞きしたいのですが、今回の県知事のコメントは、かなりクローズアップされているのですが、知事の記者会見の中で、こんなことを言っていたので読ませていただきます。

「酒田市さんなどは、ある程度の公表ということを行ってですね、あまり良くなかったというようなこともあり、しっかり取り組んで、今年は割合いい方向に行ったというふうにも聞いております。」というふうにおっしゃっているのです。まず一つ疑問に思ったのが、今年は割合良い方向に行ったというふうにおっしゃっているのですが、この結果から見て、そうも思えないのです。でも、県教委の方々がお話しなさったのでしょうから、どういう根拠をもってこのようなことをおっしゃったのかなということ、それからもう一つは、酒田市はある程度の公表ということを行ったというふうに述べているのです。学校を通じて保護者のほうに、酒田市はこの資料を出したんですよね。これが公表というふうにして、県ではある程度の公表として受け取っているのであれば、県内の他市町村では、この程度のこともやってなかったんだらうな、酒田市は、結構先進的に公表したのかなと、知事の記者会見を見て思ったのですが、その2つについて教えていただければありがたいです。

(村上教育長) 知事発言につきましては、私も教えられて県のホームページで、動画も拝見させていただいて、驚いたというのが実情です。二つ目のある程度の公表というのは、この資料の形式かと思われまます。私もある程度思い切って、これを公表しようとした訳は、既に前回説明させていただきまされたけれども、序列化は避ける、公表をする必要はあまりないけれども、全国平均と比べてどの程度の成績と判断されるのかを表すために、全体のポイント数は約で示し、観点別についてはそのままの数字で示し、観点別の序列化はたぶんできないような資料にしました。それで、ホームページで公表するというのは世界中から見られますが、それをする必要はあまりなく、まずは一番関心の高い保護者に向けてこのデータを出したということです。他の市町村が、どういう公表の仕方をしているかということについては、全部は調べていませんが、こういうスタイルで公表しているというのはあまりないのではないかと考えています。ただ、これが必ずしも先進的とは思っておりません。できるだけ伝えたいということです。これに各学校の様子を加えますので、個別の学校の様子と酒田市の様子が一緒に載っていくということは、個別の学校の説明があまりにも大雑把過ぎるとバランスが悪くなると思うのです。やっぱりそこは説明が必要だと思います。でも、序列化は避けるのではないかなというふうなことも期待しました。そういう意味では、一所懸命説明しようとしているというふうに捉えていると思います。ただ、最初の質問で、このことによって成績が向上したかということ、私どもはそういうふうな分析は、今のところしていないという状況です。何らかの因果関係が全くないとは言いませんが、このことが大きく向上したという要素に、例えば向上した観点があるとしても、それ自体というふうにはあまり影響は考えてはおりません。なぜ県知事さんの発言にそのように登場したのか、経緯については私も持っておりませんが、県の教育委員会が全ての市町村の公表のあり方などについて十分承知しているので、その辺のあたりから県の考え方も入って一緒になって、そのようになったものなのかなと、思っていたところなんです。なお、県には問い合わせはしていません。

(浅井委員) 結果についてはどうですか。結果が良かった、いい方向に行ったと県知事は

捉えているようですが。

(村上教育長) 私ども自体が生の結果を見て、すぐにそういう判断はできませんので、もっと総合的にいろんな相関であるとか、そういうことで結果が良かったというのは、全国と比べてただで果たして見ていいのかということまで掘り下げてみた場合ですね、効果があるのかないのかというのは一概にそのレベルだけでは言えないかと思います。ただ、結果が良かったという分析は、私どもはしていないということです。

(浅井委員) ということは不明なんですね。

(村上教育長) 不明です。

(浅井委員) 当事者がわからなくて県の方で評価しているということなのですね。それから、同じ知事発言で、市町村の上位ベスト3とかベスト5とかの公表のことをお話していましたが、市町村の同意がなければもちろんできないと思いますが、酒田市ではそういった話があったときには、現時点では、検討はしていないと思いますが、ベスト3とかベスト5にOKを出すということは市教委としては考えていませんよね。

(村上教育長) これから相談になることなのかなと思っておりますので、知事の発言が例えばベスト5ならベスト5というスタイルで、本当に県教育委員会がそのような方向で動くのかどうかというのはまだ不明です。同意につきましても、県の教育委員会でどの程度の同意が得られるか、例えばすべての市町村の同意が得られなければやめるというふうにするのか、多少いくつか反対があっても大方賛成であればやろうとするのか、この動きの判断も私どもではわかりません。私の個人的な考えで申し上げますと、市町村教育委員会協議会がありますので、一個ずつ賛成反対ということも当然分かれるところではあると思いますが、全部の教育長が一同に会する協議会という組織がありますので、そこに相談があった場合、組織としてはどう対応するのかなということも一つはあるのかなというふうに思っております。ただ、賛成する市町村と反対する市町村に分かれた場合、賛成するところだけ借りますよとするのかどうかなど、そういった県の動きなどについてはまだ分からないというレベルかなと思います。

(浅井委員) 市町村教育委員会協議会でもって、結論を出して、それが県に行くというようなこともありうるのですか。

(村上教育長) そこもわかりません。誰に相談するかによってどういう相談がおりてくるか、内部的に協議会がこれを話題にするか、内側からと県の側からとどういう動きになるか分かりません。

(浅井委員) 公表については、市町村の職務権限であるとか、実施要綱に書かれていたという話を聞いておるのですが、各市町村教育委員会が同意しないといけませんよね。

(村上教育長) それは単年の考え方ではない話だと思いますが、県の方からの相談というか、連絡を受けてから考えなければならないのかなと思います。かなり注目される所だと思いますので、今の時点で断定的に、酒田市ではこうしますというのは、今の段階では難しいのかなとは思っておりました。

他によろしいですか。どうもありがとうございました。

他にご質問等ないようですので、次に進ませていただきます。次は日程第6 その他に入ります。各課より報告事項がありますので報告させます。それでは管理課よりお願いします。

(管理課長) 管理課から報告案件2件、報告いたします。最初に平成27年度私立高等学校生徒授業料軽減補助金について、今年度の交付決定をいたしましたので、ご報告したいと思います。申請件数、全体の件数につきましては295件、このうち交付決定者数については全体で109件という結果になっております。内訳については、ご覧のとおりでございます。交付決定の金額については、3,948千円、これは予算の範囲内での執行ということになります。参考までに平成24年、25年、26年の状況もお示しをしておりますので、こちらの方も一緒にご覧いただきたいと思います。

続きまして、報告事項の2 田沢小学校の耐震診断についてご報告申し上げます。最初に、報告概要の次のページに図面をつけておりますので、こちらの方をご覧いただきたいと思います。耐震診断につきましては建物ごとに分けて行っておりますが、真ん中にあります普通教室棟、これは平成10年に建設されたもので、これについては耐震性に問題はありません。この普通教室棟の右側の特別教室棟をA、それから普通教室棟の左側の管理棟をB、さらにその上の方に記載されております、屋内運動場、体育館についてはC、それから屋内運動場に付設されております会議室のある建物をDというようなことになっております。それでは最初のページにお戻りいただきたいと思います。只今、A B C Dということで申し上げましたが、A特別教室棟につきましては、診断指標3ということで補強の必要はないという結果が出ております。それからB棟、D棟につきましては、B棟というのは管理棟、D棟というのは体育館に付設されております会議室となりますが、この2つにつきましては、建物自体の耐震性はあるものの、地盤の支持力不足、基礎が建物に対して弱いという結果から、指標の2、さらにC棟体育館につきましては、屋根、壁の鉄骨の補強と地盤の支持力不足から、指標の1という結果になっております。田沢小学校につきましては、適正規模に問題がある学校でございますが、地元の理解がまだ十分でないこと、それから市内の学校で耐震化の方向性が示されていないというのは、この田沢小学校だけというようなことになっておりますので、今後、地域、市長部局とも協議しながら、子供の安全性を確保できるような対応をしまいたいと考えております。以上です。

(村上教育長) 管理課長から、私立の高校の授業料の軽減補助金の件と、田沢小学校の耐震診断を受けた後の対応について報告ありました。この2件を一括して皆さまから質問等受けたいと思いますがいかがでしょうか。ございませんか。

それでは、次に進ませていただきたいと思います。次に学区改編推進主幹の方からお願いいたします。

(学区改編推進主幹) それでは私から報告事項の3 統合準備委員会設立に向けた準備状況等についてご報告申し上げます。1番目として、地見興屋小学校、松山小学校、内郷小学校の統合についてです。(1)の統合準備委員会設立に向けた日程といたしまして、9月7日に3校の学校職員への説明会を終了しております。統合準備委員会設立説明会として、9月17日、明後日になりますが、統合準備委員会を組織する団体の長を対象に、統合準備委員会設立の説明会を行います。11月2日に、教育委員会からのお知らせという形で統合準備委員会を立ち上げるということ、それから9月議会が終わったタイミングで、松山小学校の調査設計費についてといった内容のお知らせを広報に折り込み、発行する予定であります。11月上旬、今11月10日で調整をしておりますが、この日を第1回統合準備委員会ということで準備を進めております。(2)の方に統合準備委員会の委員の内訳として、各団体、地域ごとの人数を書いておりますが、個人名はこれから10月にかけて推薦によって決めていく予定であります。2番目として鳥海小学校、南遊佐小学校の統合について、教育委員会で7月24日統合の議決をいただいた日以降の日程といたしまして、8月19日から8月25日、8月26日の3回に分けて、統合を進めますという内容の地域説明会を行ってきました。これは地域の住民、それから両校の保護者ということで会場を分けて行ったものですが、特にこの場で異論であるとか、反対といった意見はございませんでした。協力をいただけるといった雰囲気の説明を終えることができました。(2)統合準備委員会設立に向けた日程といたしましては、9月7日に学校職員への説明会を終了しております。9月16日、明日ですが、統合準備委員会設立の説明会、これも同じように統合準備委員を推薦いただく各団体の長に対して説明を行うものです。11月中旬これは11月17日ということで調整をしておりますが、第1回の統合準備委員会を開催したいというような進め方をしております。(3)に各団体から統合準備委員会に推薦いただいた人数などを記載しております。鳥海小学校、南遊佐小学校の方については統合準備委員32名体制で考えております。報告は以上でございます。

(村上教育長) ただ今の報告にご質問ご意見ございませんでしょうか。

(齋藤委員) 松山地区の件で質問させていただきたいのですが、前回の説明会以降、特に内郷地区の方々の動きがあるのかなのか、教えていただきたいと思います。

(学区改編推進主幹) 内郷地区の方々からは、特別にもう少し協議をとか、なお反対などといった意見は、ふれあいの手紙も含めて寄せられておりません。場面場面の話になるの

ですが、例えば、市長の未来トークを行った時は、内郷の会長さんから、中学校の正門の整備の話だったのですが、「小学校の統合については、やっと方向性が見えた」と、そんな出だしで、枕詞としてそのようにつけて言っておりました。あるいは地域協議会で、私が報告に行った時も、「やっと決まった」と、内郷の会長の発言ですが、それも枕詞としてつけて言われており、受け入れていただいているのかなと感じております。

(齋藤委員) ありがとうございます。ある程度地域の方々からもご理解をいただいているという認識であると思いますので、よろしく願いしたいと思います。

(村上教育長) 他にございませんでしょうか。では、ないようですので次に進みたいと思います。次は社会教育課長からお願いします。

(社会教育課長) それでは、報告事項4 平成26年度継続費精算報告(松山歴史公園整備事業)について報告いたします。2枚目の別紙をお願いいたします。松山歴史公園に整備した伝習機能施設、現松山城址館の建設について、継続費に係る継続年度が終了いたしましたので、ご報告するものです。平成25年度から26年度までの2カ年を事業期間としたものであり、継続費総額22,750万円に対し、実績は226,359千円となりました。年度ごとの支出比較につきましては、ご覧のとおりとなっております。報告については以上です。

(村上教育長) ただ今の件につきまして、皆様の方からご質問ご意見などございませんでしょうか。

(浅井委員) 報告事項2についてですが、よろしいでしょうか。

管理課長から、今後は子供の安全性を確保できるようにしていきたいということでしたが、その安全性の確保のために、こんな方法でやっていきたいという結論を出すのを、いつ頃までとお考えですか。期限について教えていただければと思います。

(管理課長) これは相手のある話でありますので、そのとおり行くかどうか、未定の部分がございますが、できるだけ早い対応をしていきたいということ踏まえ、新年度予算で、必要なものについては予算化をしていきたいということもありますので、それに合わせた時期に、ある程度の方向性などが出れば一番いいのかなと思っております。

(浅井委員) そうすると、今年度中には大体の結論を出していきたいという希望ですね。

(管理課長) 1年遅れると、それだけ子供の安全性の確保の時期も遅れてしまうということもありますので、我々の希望としては、そのような考え方で向かっていければと思っています。

(浅井委員) はい、よろしくお願いします。

(村上教育長) それでは他にございませんでしょうか。

それでは、こちらからの報告事項は以上ですが、委員の皆様方の方から、この場で聞きたいようなことなどありませんか。それではないようですので、本日の日程はすべて終了しましたので閉会します。ありがとうございました。